

週報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め

御旨にかなう道を備えてくださる。」

(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半

子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ～10 時

祈 禱 会 各水曜日

○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)

●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 042-742-1593

FAX. 042-742-1393

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

00290-4-80707

3218 2026 年 7 月 12 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 8 主日・「部落解放祈りの日」)

～部落解放祈りの日礼拝～

司 式 者 井 殿 準

奏 楽 者 宮 崎 由 紀 子

前 奏		奏 楽 者
招 詞	イザヤ 61:1	司 式 者
讃 美 歌	1 「主イエスよ、われらに」	一 同
交 禱	(別紙参照)	”
聖 書	列王記上 10:1～13 (旧 P. 546) マルコ 8:22～26 (新 P. 77)	司 式 者
使徒信条	(93-4-A)	一 同
祈 禱		司 式 者
讃 美 歌	143 「主をほめ、主に感謝せよ」	一 同
説 教	「神と向き合うことで」	司 式 者
祈 禱		”
讃 美 歌	474 「わが身の望みは」	一 同
献 金		”
主の祈り	(93-5-A)	”
頌 栄	29 「天のみ民も」	”
祝 禱		司 式 者
答 唱	40-6 「アーメン」	一 同
	～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～	
報 告		司 式 者
讃 美 歌	91 「神の恵みゆたかに受け」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨

「僅かなパン種が」

(ガラテヤ 5:2～11)

パウロがガラテヤの教会を去った後、ユダヤ人キリスト者の教師がガラテヤを訪れ、パウロの教えを否定し、信徒たちに割礼を受けることを迫った。

ユダヤ人にとって割礼は、神の民なら当然受けるべきものであったが、それはユダヤ人キリスト者にとっても同様であった。しかし、パウロは、異邦人キリスト者であるガラテヤの信徒たちが割礼を受けることには猛反対する。何故だろうか？

ガラテヤの信徒たちの中には、パウロの教えと違うことを理由に割礼を受けることに躊躇した者もいたが、自分たちは異邦人であり、神に選ばれた民であるユダヤ人に比べて劣っているという思いから、割礼を受けたいと考える者もいた。しかし、パウロは、人が救われるのは割礼や律法の実践によるのではなく、ただキリストを信じる信仰と神の恵みによるのであり、ユダヤ人か異邦人かは問題ではないと強調します。そして、小さな誤った考えでも、パン種が生地全体を膨らませるように教会全体へ広がり、人を裁く心を生み出してしまうと警告した。実際、ガラテヤの教会では、割礼を受けるべきだと考える者たちが、受けない者たちを裁き始めていた。そのような状況に対して、パウロは「割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切である」と語り、互いに争い、裁き合うことを戒めている。

我々は、救われるために割礼が必要とは思えない。しかし、我々も、神に喜んでいただくことを願って、「こうすべき」「ああすべき」と様々に考えながら、それと外れた者を見つけては、その者を裁いてしまっていることがあるのではないだろうか？しかし、「キリスト者ならこうあるべき」という考えは、自分を神の高みに置いて他者を裁かせる危険なパン種ともなるのだ。

我々が救われるのは、自らの行いによるのではなく、ただただキリストの十字架による。その一点を忘れる時、悪しきパン種が入り込み、人を裁いたり、神の恵みの尊さを忘れるという罪が入り込む。我々はそのことをしっかりと心に刻んで、神の恵みに喜び感謝し、広い心で互いに愛し合う歩みを続けて行こう。